

2022 年度 事業報告

(2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日まで)

公益財団法人不二たん白質研究振興財団

1. 事業の概況

当財団は、1979 年（昭和 54 年）の「大豆たん白質栄養研究会」発足以降、1997 年（平成 9 年）の財団法人化、さらに 2012 年（平成 24 年）の公益財団法人化を経て、2021 年度（第 25 期）には発足 42 年を迎えました。

例年 5 月末に行った研究報告会は、2019 年度後半から続く新型コロナウイルス 2019 の感染拡大防止の対応をとりながら、大阪・千里阪急ホテルを拠点とした会議および一部リモート会議併用といたしました。

本財団の研究助成事業を広く一般の人々に周知いただくための広報活動では、例年 200 名超の聴講者を集めて公開講演会を開催しております。しかしながら、先述のように新型コロナウイルス 2019 の感染拡大防止に伴う 3 密回避の観点から、2022 年度も講演会場への入場数を半分にするなど出来得る限りの対応策を施したうえで、仙台市にある仙台国際センターにて開催することができました。同時に、Web でのライブ配信の実施と、後日に期間限定でアーカイブ配信を行いました。

2. 事業報告

1) たん白質に関する研究およびこれに関連する研究を行なう者に対する研究助成事業

(1) 2022 年度研究報告会の開催

2021 年度（第 25 期）助成課題として採択された被助成者による 1 年間の研究成果の報告会は、新型コロナウイルス 2019 の感染拡大防止処置を実施しつつ、2022 年 5 月 30 日、31 日に「千里阪急ホテル」（豊中市）での現地開催と一部リモート会議を併用した形で開催いたしました。

特定研究課題 2 題と一般研究課題 23 題、若手研究者課題 7 題の計 32 件の報告がなされました。選考委員の先生方には座長をお願いしたうえで、各発表について評価していただきました。

(2) 2021 年度研究報告記録誌の刊行ならびに 2022 年度研究報告記録誌の編集

2020 年度（第 24 期）に採択され、2021 年度の研究報告会にて、その助成成果が報告された内容を掲載した研究報告会記録誌「大豆たん白質研究」第 24 巻を 2022 年 7 月に刊行し、関係者、希望者に無料で配布いたしました。本誌は ISSN1344-4050、CODEN DTKEFV として公開され、国会図書館等で閲覧することができます。また、科学技術文献データベース（JICST）での検索が可能です。

また、2021 年度（第 25 期）に採択された助成対象者による研究成果を掲載する研

究報告会記録「大豆たん白質研究」第 25 巻の編集作業を進めており、本年 6 月刊行を予定しています。

(3) 2022 年度研究助成金の支払い

前年度において採択された 2022 年度（第 26 期）の一般研究への助成として、25 件の課題に対して総額 25,000 千円を支払い、また若手研究者枠の助成では 10 件の課題に対して総額 5,000 千円を支払いました。特定研究への助成では、2021 年度新規応募課題については、2 件の応募課題のうち、採択すべき課題として 1 件を採択し、前々年度採択課題の 1 件と合わせて計 10,000 千円を支払いました。これらの研究成果は、本年 5 月 29 日、30 日に開催を予定している研究報告会において、助成対象者より報告されます。

(4) 2023 年度研究課題の選考

2022 年 9 月～11 月の間に日本または EU 支部の財団ホームページに募集要項を告知し、学会誌ならびに学会ホームページ等（日本）や LinkedIn やオランダの大学広報（EU 支部）に募集要項を掲載して、2023 年度（第 27 期）の研究助成の課題を募集しました。昨年度に改善された応募数に比べて、大幅な拡大には至っておりません（応募件数：特定研究 1 件、一般研究 31 件、若手研究者枠 10 件、海外研究助成 2 件）。

応募課題については、2023 年 1 月 23 日に不二製油サイエンスイノベーションセンター 6F 会議室を拠点とした選考委員会において、選考委員長である徳島大学二川健教授を中心に、リモート（Zoom）で選考委員による審議が行われました。特定研究については、本年度は新規応募の 1 件について過去採択課題基準に照らして、採択されるに値するとして採択されました。継続課題 1 件については、研究が順調推移していることから、引き続き採択とされました。一般研究課題は、選考委員による評価の高かった 20 課題が採択されました。また、本年度は、追加研究申請のあった場合に上位から希望額を分配する（追加助成額総額 3,000 千円まで）旨、通知していました。その結果、評価の高かった 3 課題に対し、申請者から要請のあったそれぞれ 1,000 千円を追加助成することといたしました。若手研究者枠は 5 件の採用枠（ただし、1 件あたり 1,000 千円の助成）に対して応募が 10 件で、選考委員評価の高かった 5 課題について採択することといたしました。この選考結果は速やかに各研究者に通知されました。海外研究助成では、事前に海外選考委員と選抜された国内選考委員 2 名による予備選考が行われ、日本の選考委員会にて最終採択可否が判断されました。応募のあった 2 課題のうち 1 課題が海外選考課題候補として日本の選考委員会に提議されました。2023 年 1 月 23 日の選考委員会にて、海外選考委員を除く 14 名の選考委員によって採択可否が判断され、予備選考で選ばれた 1 課題を採択することとなりました（5,000 千円、単年）。

以上、助成総額は 43,000 千円となっております（採択課題は別表を参照）。

2) たん白質に関する研究およびそれに関連する研究に関する広報活動

(1) 2020 年度研究成果の広報

研究報告会記録「大豆たん白質研究」第 24 巻に掲載された報告内容は、インターネット上で検索システムを付けて公開し、随時閲覧が可能といたしました。

(2) 公開講演会

栄養士・一般の方を対象に「大豆のはたらき in 仙台一人と地球を健康にー」と題して、福島大学・教授の松田 幹先生に実行委員長をお願いし、2022 年 11 月 12 日（土）に仙台国際センター(仙台市)を会場として、講師に宮城大学食産業学群教授石川 伸一先生、名鉄病院院長・名古屋大学名誉教授 葛谷 雅文先生を講師に迎え、ご専門の立場からご講演をいただきました。講演の概要は次のとおりです。

1. フードテックで変わる未来の食事

演者) 宮城大学食産業学群教授 石川 伸一 先生

座長) 茨城大学 農学部 教授 中村 彰宏 先生

内容) 昔の SF の物語の世界で見た「未来の食事」は、いまや手に届くところに迫ってきており、このような技術開発の進歩は食料不足や環境問題など人間が抱える社会課題を解決するために、新しい食関係のテクノロジー（フードテック）による食の開発が益々注目されている。その代表的なもののひとつとして、植物性代替肉や培養肉、昆虫食などの開発が進んでおり、また農業や調理の世界でも、機器と情報通信技術が融合し、スマート化やロボット化なども急速に進展してきている。研究開発の進歩と実用化への期待から、フードテックの全体像と具体的な事例を説明しながら、今後の私たちの食事がどうなるのか、について判りやすくご講演を頂いた。

2. 健康長寿を栄養から考える

演者) 名鉄病院院長・名古屋大学名誉教授 葛谷 雅文 先生

座長) 福島大学 食農学類 教授 松田 幹 先生

内容) 超高齢社会を迎えた我が国では国民ができるだけ長く自立した生活を過ごし、元気に長生きできる（健康寿命の延伸）ような取り組みが必要とされている。そのためには若いころからの生活習慣の是正や病気の予防のみならず、高齢期に起こりやすいフレイルを予防することが重要である。フレイルとは要介護状態に至る前段階を指し、適切に有効な手段を行えば、また元気になれる状態を指す。医師として、また研究者として、高齢者の医療について長年、予防の観点からの研究と、臨床まで幅広く対応されてきたご経験から、フレイルの概念や機序と、フレイルを予防し健康長寿を達成するための食事摂取の重要性についてご講演された。特に食事を摂取する観点からの大豆食品を摂取する意義について説明され、さらに健康長寿を延ばすための、社会活動に参加することの重要性について述べられた。

今回の講演会は、政府によるコロナウィルス感染症の規制が緩和された中で実施でしたが、昨年同様感染対策は緩めることなく、その指示のもと出席者全員のマスクの着用・検温・アルコール消毒や発表演台へのアクリル板設置および質疑応答の省略等、できる限りの感染防止対策を実施した上での開催となりました。

講演には、宮城県・仙台市内を中心に、会場定員 288 席の中、上記対策のため 150 名に定員を制限しました。食と健康に関心の高い一般の方々を中心に、栄養について研究する大学関係者の方々、食品関連企業の方々など幅広い分野から定員を上回る聴講申込のご希望が寄せられ、先着順に定員の 150 名の方に聴講券を配布、定員を超えた方には Web 配信のご案内をしました。来場された皆様は各先生の講演を熱心に聴講されました（当日参加者は 96 名）。

Zoom ウェビナーによるライブ配信では約 100 名の方が視聴されました。また、録画した講演内容は、後日アーカイブ配信として当財団 HP で公開いたしました（2023 年 1 月末日まで）。本年度は、計画段階で講演会の実開催とアーカイブ視聴できるよう準備を進めてまいります。

今後もこのような公開講演会を通して、大豆・大豆たん白質の良さを、広くお知らせしていきたいと考えます。

3) その他目的を達成するために必要な活動

(1) 事業時報の発行

財団の内容説明と事業紹介のため「時報」第 25 号を刊行しました。

(2) 事業活動等の公開

2021 年度の事業報告・決算報告ならびに財務内容、および 2022 年度の事業計画・予算を総てインターネット(<https://www.fujifoundation.or.jp>)上に公開しました。ここには役員・評議員等関係者の随想も掲載されています。加えて、ホームページ中で改訂が遅れていた報告会記録誌「大豆たん白質研究」の検索システムも改訂しました。

(3) 海外への情報発信

研究報告書の検索サイトを海外研究者により見やすい形にするために、スマホ対応も視野に日本国内向けホームページの英語サイトをリニューアルいたしました。

(<https://www.fujifoundation.or.jp/english/>)。引き続き、日本国内サイトもスマホ対応できるよう、リニューアルを続けて参ります。

また、財団活動のグローバル展開では、今まで報告されてきた研究成果を国内外問わず広く知っていただくことを目的として、をオランダ・アムステルダムにあるワーゲニンゲン大学キャンパス内に EU 支部設立しております。情報発信の手段として EU 支部ホームページを立ち上げ、2021 年秋から随時、情報の更新を行っております (<https://fujiproteinfoundation.org/>)。

(4) 海外での公開講演活動

EU 支部では、海外の植物性たん白質、特に大豆たん白質研究に関する情報収集と、日本の研究成果の発信を考えております。その一環として、当財団と同じように植物性食品の研究に対して研究助成・広報活動を行っているベルギーの Alpro 財団 (<https://www.alprofoundation.org>) と共働オンラインセミナーを開催いたしました。。

両財団からそれぞれ6名の研究者を推挙し、大豆を中心とした研究発表と大豆の将来性について3回に分けて議論しました(2022年6月14日・9月20日・11月8日)。日本からは、第一回目目に山本 茂先生(十文字学園女子大学)、河野 光登先生(九州女子大学)、第二回目に石見 佳子先生(東京農業大学)、立花 宏文先生(九州大学)、そして第三回目に二川 健先生(徳島大学)、古屋 茂樹先生(九州大学)の6名の先生方にご登壇頂き、最先端の日本の大豆関連研究を紹介頂きました。欧米の研究者や栄養士を中心に、日本の研究成果の発表に対しての評価が高く、アーカイブ配信の実施が検討されています。このセミナーを通して、不二たん白質研究振興財団の海外拠点の周知と研究課題募集につながることを期待しております。

3. 会議等 注) 文書中決議事項は(議)を付した。

1) 理事会

(1) 第1回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2022年5月10日(決議があったものとみなされた日)

事項：2021年度事業報告の承認

2021年度決算に関わる計算書類の承認

定時評議員会(第1回評議員会)招集についての承認

(2) 第2回理事会

日時：2022年5月31日 午後1時～午後2時45分

場所：「千里阪急ホテル 梅・桃の間」会議室を拠点としたりリモート会議

議案・報告

第1号(報) 2021年度事業報告について

第2号(報) 2021年度決算に関する計算書類について

第3号(報) 理事選任について

第4号(議) 規程の変更について

第5号(議) 2023年度研究助成課題募集要項と選考について

第6号(議) 2022年度日程について

第7号(議) 広報(公開講演会・共働シンポジウム)について

第8号(議) 理事会最終決裁について

第9号(報) 代表理事および業務執行理事の執務の状況について

その他

(3) 第3回理事会

日時：2022年5月31日 午後2時45分～午後3時

場所：「千里阪急ホテル 梅・桃の間」会議室を拠点としたリモート会議

議案・報告

第1号(議) 代表理事・理事長の選任について

第2号(議) 業務執行理事・常務理事について

第3号(議) 事務局体制の更新について

(4) 第4回理事会：定款第44条による決議

日時：2022年8月31日（決議があったものとみなされた日）

議案・報告

第1号(議) 選考委員会規程別紙1：国内助成課題の選考方法の一部改訂

第2号(議) 選考委員会規程別紙2：海外助成課題の選考方法の一部改訂

第5回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2022年12月26日（決議があったものとみなされた日）

事項：2022年度臨時評議員（第2回評議員会）招集に関わる事項

(3) 第4回理事会の開催：定款第44条による決議

日時：2023年1月24日 午後1時00分～午後3時

場所：不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6F会議室を拠点としたリモート会議

議案・報告

第1号(議) 2023年度事業計画

第2号(議) 2023年度予算

第3号(議) 2023年度研究助成課題の採択について

第4号(議) 2023年度日程について

第5号(報) 基本財産の運用について

第6号(報) 代表理事および業務執行理事の執務状況について

その他(報) 財団のあるべき姿について

2) 評議員会

(1) 定時評議員会（第1回評議員会）の開催

日時：2022年5月31日 午後1時15分～午後2時30分

場所：「千里阪急ホテル 梅・桃の間」会議室を拠点としたリモート会議

議案・報告

- 第1号(議) 2021年度事業報告について
- 第2号(議) 2021年度決算に関する計算書類について
- 第3号(議) 理事選任について
- 第4号(報) 規程の変更について
- 第5号(報) 2023年度研究助成課題募集要項と選考について
- 第6号(報) 2022年度日程について
- 第7号(報) 広報(公開講演会・共働シンポジウム)について
- 第8号(報) 理事会最終決裁について
- 第9号(報) 代表理事および業務執行理事の執務の状況について
- その他

(2) 臨時評議員会(第2回評議員会)の開催

日時:2023年1月24日 午後1時30分~午後3時

場所:不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6F会議室を拠点とし
たりリモート会議

議案・報告

- 第1号(議) 2023年度事業計画
- 第2号(議) 2023年度予算
- 第3号(報) 2023年度研究助成課題の採択について
- 第4号(報) 2023年度日程について
- 第5号(報) 基本財産の運用について
- 第6号(報) 代表理事および業務執行理事の執務状況について

その他(報) 財団のあるべき姿について

3) 選考委員会

(1) 第1回選考委員会の開催

日時:2022年5月30日 午前11時~12時

場所:「千里阪急ホテル 梅・桃の間」会議室を拠点としたりリモート会議

議題:

- 第1号 第25回研究報告会の進行について
- 第2号 2022年度広報事業(案)について
- 第3号 2023年度研究助成課題募集要項と選考について
- 第4号 2022年度日程について
- その他

(2) 第2回選考委員会の開催

日時:2023年1月23日 午後3時~5時

場所:不二製油株式会社サイエンスイノベーションセンター6F会議室を拠点とし
たりリモート会議

議題：

第1号 2023年度助成課題の選考について

第2号 その他

附属明細書の作成について

1. 事業報告に関して、その内容を補足する重要な事項はありませんので、附属明細書は作成していません。

以上